

# しのぶ草



（隔月発行）

発行：宮崎市教育委員会文化財課

宮崎市きよたけ歴史館

所在地：宮崎市清武町加納甲3378-1

TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634

## ＜有朋自遠来 不亦楽＞

朋あり 遠方より来る。また楽しからずや（孔子 論語より）



テレビ局も取材に



8月までしばしの別れ

5月中旬、歴史館に電話が入りました。相手は埼玉県川口市在住で、ある団体の活動を通じての旧知の友、川口市立元郷小学校の澤田哲夫校長で、夏の川口交流の団長として宮崎を訪問することになったと言うのです。合縁奇縁とはこのことだなと思いました。

迎えた7月23日、埼玉県川口市との交流で教育長、そして澤田団長以下6名の職員が20名の児童を引率して本館にやってきました。昨年までは川口市と清武町域の小学生並びに中学生が交流していましたが、今年からは小学生のみ、しかも清武町域だけではなく、飢肥藩の所領であった旧清武郷にある小学校に範囲を広げての交流となりました。当日は宮崎のテレビ局が3社とも取材に来館し、交流の様子が放映されました。

本館研修室でまずはグループ編成、グループは7名程度で、川口の児童と宮崎の児童の混成です。やや緊張しながらの自己紹介、班長決定でしたが、その後活動をしていく中で、だいぶ児童の表情も和らいで来ました。当日の夜はサンクマールに、翌日は生目の杜遊古館に宿泊し、昼間は仲良く行動を共にして、25日は再び本館でお別れ会。児童は3日間の交流ですっかり打ち解けて親しくなり、しばしの別れを惜しんでいました。8月には宮崎の子どもたちが川口市を訪問します。

それに先立つ7月17日、安井息軒先生が幕末から明治初頭の混乱を避けるため9か月間疎開させていただいた、同じく川口市東領家の「息焉舎」（そくえんしゃ）にお住いの吉原丈夫様、ご長男ご夫妻、そしてお嬢さまお二人が揃って来館されました。本館長が5月に同家を訪問させていただいた折に、是非清武にも…とお声かけしていたものでした。これまた息軒先生を中心とした縁で、「朋あり 遠方より来る また楽しからずや」の7月でした。



本館にご来館された吉原家の皆様（右から5番目が丈夫様91歳）

## ＜弥生時代の清武＞

縄文時代は狩猟・採集社会で、集落を台地の上に造り生活していました。次の弥生時代になると大陸から伝わった水稻耕作を中心とする農耕社会へと変わり、拠点的な大規模集落は水田の近くに造られるようになったと考えられています。そのことを示すように清武川流域のシラス台地上で発掘調査された弥生時代の遺跡は、遺物しか見つかっていない遺跡や遺構が見つかっていても堅穴住居跡は5棟以下というような小規模な遺跡ばかりです。台地の上で見つかる小規模な遺跡が弥生時代の清武の特徴といえます。大規模な縄文時代の遺跡がたくさん見つかる状況と比べると、少しさびしいのですが貴重な資料も出土しています。

宮崎平野部の弥生時代の遺跡では、瀬戸内地域で作られる凹線土器や近畿地方で多く出土する絵画土器が見つかるという特徴があり、瀬戸内地域や近畿地域との文化交流があったことを示しています。町内の須田木遺跡や三角堀遺跡ではこれらが出土しており、中には完全な形に復元される資料も見つかっています。

また、弥生時代の代表する石器である石包丁や、磨製石鏃などの磨製石器も見つかっています。特に、上の原第1遺跡で出土している磨製石剣は、県内でまだ数例しか発見例がない注目される石製武器です。そのほかに、鉄製武器である鉄鏃も下猪ノ原遺跡ではお墓から、浦田遺跡では堅穴住居跡から出土しています。

町内では弥生時代の大きな遺跡は見つかっていませんが、出土遺物を詳細に観察すると宮崎平野部の特徴的な事象を見つけることができます。（文責 秋成）



町内出土の磨製石製武器（一番左が磨製石剣）

## ★ 講座のご案内 ★

- ◇上井寛兼日記を読もう⑤ 講師：当館職員  
日時：8月23日（土） 13時30分～15時
- ◆きよたけ歴史講座④ 講師：当館職員  
日時：8月30日（土） 10時～11時30分  
演題：「ギニョモン屋敷と細川義門」
- ◆きよたけ歴史講座⑤ 講師：神川 孝志氏  
日時：9月27日（土） 10時～11時30分  
演題：「安井小太郎先生のこと」

※お気軽にご参加ください。